

学校長式辞

厳しい冬を乗り越え、穏やかな日差しと吹く風から、春の訪れを感じることができる季節となりました。このような良き日に、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り、木更津総合高等学校第20回卒業証書授与式を挙げていきますことを、心より感謝申し上げます。

そして卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の卒業式は皆さんが制服を着て本校に登校する最後の日です。3年間を振り返って、木更津総合高校での生活はどうでしたか？皆さんが過ごした3年間は、これまでの木更津総合高校の卒業生が過ごしてきたどの3年間とも違う特殊な3年間だったと思います。中学3年生の最後の1ヶ月が、コロナによる全国一斉休校により、思い出に浸る間もなく突然終わりました。そして皆さんが期待に胸を膨らませていた4月からの高校生活がいよいよ始まろうとする目前で、今度は千葉県内の学校の一斉休校が決定されました。入学前のオリエンテーションを急遽1日で中断して、簡易的な入学式を実施し、その後は再び休校となりました。保護者の皆様には、生徒たちの高校生活スタートの晴れ舞台を見ていただくこともできませんでした。休校期間は2ヶ月におよび、学校が再開されたのは6月1日でした。しかも男女別登校・時差登校などが年内いっぱい続き、通常の学校生活とは到底言えない状況でした。クラブ活動は公式の大会等は全て中止となり、多くの生徒達が目標を見失ったまま、ただ学校での練習をするのみでした。せめて学校行事だけでも実施したいと思いましたが、かろうじて実施できた体育祭も文化祭も本来の形とは程遠い、縮小バージョンが限界でした。1年が経過し、皆さんが2年生になっても状況は大きく好転することはありませんでした。クラブ活動は何とか公式の大会等が復活したものの、多くのクラブ活動が、コロナ感染者が出るたびに長期間の停止を余儀なくされました。体育祭も文化祭も前年と同じく縮小バージョンでの実施、何よりも、実施予定だった修学旅行を直前に中止の判断をせざるを得なかったことは痛恨の極みです。全国すべての高校生が同じような境遇とはいえ、よりによってこの時代に1回しかない高校生活を送る皆さんに対して、当たり前ものを提供してあげられないことを申し訳なく思いました。しかしながらそのような中でも、皆さんは本当によく頑張ってくれたと思います。色々な制限がある中でも、その中でできる限りの工夫と努力をし、勉強でも行事でもクラブでも全力で取り組んでくれました。皆さんが3年生に進級した今年度、4月の始業式に「可能な限り通常の学校生活を取り戻していこう」と宣言しましたが、皆さんはその思いに100%応えてくれました。この1年間は、臨時休校など学校が閉じたことは1度もなく、クラブの大会などが中止になったことも1度もなく、予定されていた学校行事は全て実施することができました。体育祭と文化祭という2大行事は、本来の形である2日間フルバージョンで実施され、木更津総合高校の20年間の歴史で1番と言ってもいいほどの盛り上がりを見せました。そしてその立役者は紛れもなく3年生の皆さんです。入学してからの2年間、本来の体育祭や文化祭の経験が無く、先輩たちの背中を見ることもできず、実質初めての体験にも関わらず、木更津総合高校の最上級生として見事に後輩たちを、学校全体を引っ張ってくれました。最後の最後で、木更津総合高校の醍醐味を味わってもらえて、私も心の底から嬉しく思いました。

とは言うものの、皆さんの高校生活の大半で、コロナが大きな障害となったことは、まぎれもない事実です。しかしこれをいつまでも苦い思い出とするのか、今後の成長の大きな契機にするのかは、皆さんの今後の生き方次第です。コロナ禍は、世界中でほぼ同時期に起こった禍です。未だに、国も会社も学校も大きな難局にあることは間違いありません。ただここで大切なことは、ただ自分の不運を嘆くのではなく、コロナによってもたらされた変化を前向きに捉えることだと思います。コロナをきっかけにして、新たな経済活動の在り方や国際交流の在り方が築かれていきます。学校においても、授業や行事やクラブの在り方も変わっていくでしょう。そして新たな発想によって、これまで思いもつかなかったものが誕生し、大きな発展を遂げるかもしれません。つまり変化はチャンスなのです。この数年間で失ったものはたくさんあります。しかし新しく生まれたものもたくさんあります。皆さんは是非とも、新しい社会を築いていく大きな力となってください。ただし一つだけ留意してほしいことがあります。それは「人と人との繋がりを大切にしてほしい」ということです。コロナによって生まれた新しいスタ

イル、特にインターネットの使用に拍車がかかった現在の傾向として、人と人との直接の交わりを回避するという方向性を感じます。たしかに技術の進歩によって、世界中のどこにいても、インターネットを使えば大抵のことができるようになりました。相手の顔を見なくても、相手と会話をしなくても、パソコンやスマホがあれば共同で作業ができます。しかし真の意味で人と人が共同するには、直接の出会いが不可欠です。皆さんは千葉県一と言っても過言ではない、個性豊かで様々な地域から集まったたくさん仲間たちと、切磋琢磨しながら3年間を過ごしてきました。色々な考え方や価値観を持った仲間たちと過ごすことで、それをお互いに受け入れながら一つのもを作り上げていく人間力を身に付けたはずです。その人間力は、人と人との直接の交流の中でこそ発揮されるものです。皆さんが3年間で培った人間力と真心を如何なく発揮し、社会で愛され必要とされる、そして新時代を切り開いていく人財となることを期待しています。

結びにあたり、保護者の皆様にはこれまでの本校教育に対するご理解ご協力にあらためて感謝申し上げます。コロナにより、お子様が入学してからの3年間の学校生活で、お子様の活躍している姿、成長していく姿を見ていただく機会がほとんどありませんでしたが、高校生活最後の晴れ姿を見ていただけて本当に良かったと思います。

最後に、今年の夏、高校野球甲子園で優勝した仙台育英高校の監督の優勝インタビューを紹介したいと思います。「入学どころか、たぶん中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活っていうのは何て言うか、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんですね。青春ってすごく密なので。でもそういうことは全部駄目だ駄目だと言われて、活動していてもどこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれたこと、本当に全ての高校生の努力の賜物が、ただただ最後僕たちがここに立ったということだけなので、是非全国の高校生に拍手をしてもらえたなと思います。」こんなインタビューでした。保護者の皆様、そして教職員の皆さん、この苦しい3年間を乗り越え、最後まで頑張って本校を巣立っていく卒業生たちに万雷の拍手をお願いして私からの式辞といたします。

2023年3月1日 木更津総合高等学校 校長 真板竜太郎